



市議会議員  
白石えつ子

# 東村山・生活者ネットワーク 「誰のいのちも大切にされるまちづくりを」



## 東村山・生活者ネットワークニュース 通信 vol.150

発行日/2024年2月1日 発行/東村山・生活者ネットワーク 発行責任者/朝倉順子  
〒189-0013 東村山市栄町2-19-3 森田ビル201 TEL&FAX 042-392-7677  
hmy.net@hyper.ocn.ne.jp https://hmy.seikatsusha.me/

### すべては未来の子どもたちのために

2024年元旦、石川県能登地方を襲った最大震度7、マグニチュード7.6の地震は阪神淡路大震災の3倍以上の威力だった。海沿いに位置する珠洲市は、9割の家屋が半壊・倒壊の現状に。かつて石川県珠洲市は、1975年に原発建設計画が持ち上がり、活断層が無数に走る危険な土地であるため住民による反対運動が起こり、市を二分するも2003年に建設計画は凍結。先を見据えた住民の力の結集が国策を封じ込め、まさに民意の勝利を証明した歴史があった。私たち東村山・生活者ネットワークの活動の主軸の一つは「脱原発」。



### 2023年12月10日

「原発をとめた裁判長」そして原発をとめる農家たち」の上映と樋口英明元裁判長の講演を、多摩きた生活クラブ生協運動グループ・東村山地域協議会主催、小平・清瀬・東大和地域協議会共催、こたいらソーラーの後援で実施。

### 「原発をとめた裁判長」そして原発をとめる農家たち

映画の  
原発事故のもたらす被害は甚大。それゆえ原発には高度な安全性が求められる。我が国の原発の耐震性は極めて低い。よって原発の運転は許されない。  
2014年5月21日 福井地方裁判所において樋口英明裁判長の大飯原発(福井県)運転差し止めの判決文が流れた。



### ともに原発を止めるために

映画は、我が国の原発に共通する危険性、すなわち、原発の耐震性が低く、頻発する地震に耐えられないことを指摘する樋口理論を社会に広める活動を始めた樋口元裁判長と、樋口理論を軸に新たな裁判を開始した河合弘之弁護士、また福島原発放射能汚染で廃業した農業者近藤恵さんが、農地上で太陽光発電するソーラーシェアリングに復活の道を見出していく姿を描いている。  
福島第一原発事故後、福島の若者世代が農地の再生に取り組む姿はまさに希望。農地上で太陽光発電するソーラーシェアリングは、太陽光発電装置を地上3mの位置に、または堀のように立てて設置することで、農業や牧畜などと共存を可能にするしくみ。共に原発をとめるため農業復活の道を見出し、グリーンジョブとして新たな働きにつなげている。「絶望ばかりの世の中だけど、希望はある」の言葉

に救われる。

### M住宅メーカーの耐震性は5115ガル

震度は、どれほど強い揺れでも7以上は示されない。一方震源地の振動の激しさ、加速度を表すガルは311東北地方太平洋沖地震は2933ガル、新潟県中越沖地震2515ガル。2021年3月までに原子力規制委員会が認可した原発の耐震設計基準は、福井県大飯原発3・4号機993ガル、世界最大規模の新潟県柏崎刈羽原発6・7号機1209ガルと、20年間に起きた主な地震より遥かに低い。原発の耐震性は保障されていない。

### 原発の危険性を知り、判断し、伝えていくことから「脱原発」を

多くの人が持つてしまう「原発問題は高度に専門的で難しい」という先入観が、本質は電力会社の主張を信用できるか否かだけのことに気付かず複雑にしている。  
原発をとめなくてはいけない理由は極めてシンプル。  
① 原発は人が管理し続けなくてはいけない。  
② 人が管理しそこなった時の被害の大きさは甚大で想像を絶する。  
③ 原発の施設に耐震性がない。一般の住宅より低く、極めて危険。  
福島第一原発事故は、奇跡が重なっただけ、本来は東日本壊滅だった。  
火力発電は火を止めれば安全になる。しかし、原発では核分裂反応を止めても、電気でも水を送り続けてウラン燃料を冷やし続けられない限り、過酷事故になる。原発は運転を止めただけでは、安全は確保できない危険な技術。このことをストレートに受け止め「原発は危険」と判断する「ごく普通の感性」が重要。この意思を束ねて大きな原動力とするのは市民の力。

### すべては未来の子どもたちのために

2023年ドバイで開催されたCOP28の結論は、原子力エネルギーの容量を2050年までに3倍に引き上げる宣言が発表された。原発の「再稼働」、「40年から60年へ原発の耐用年数延長」、「小型原発再開」へ舵をきった岸田政権。私たちは福島原発の事故から、生命、身体への重大な危害、国土汚染は土地・財産を奪い、築き上げた暮らしを崩壊させることを見てきました。私たちの脱原発運動の起点となったチェルノブイリ原発の事故ではその危険性に世界中が気づき、映画でも強く訴えています。

東村山・生活者ネットワークは、活断層の存在と地震大国日本の現実を直視し、珠洲市の住民運動にならない原点を忘れず「脱原発」活動に取り組みます。

講演後会場から「私たちが今なすべきことは？」の声に、樋口英明さんは「今日帰られたら、皆さんひとり一人が大切な二人の人に今日の話を伝えてください。」と。国民の大きな意思を示していくために。



160席すべて埋まった東村山サンパルネコンベンションホール

この度の能登半島地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。また、一日も早い復旧復興を心からお祈りいたします。